

学びの基盤となる【読書】



【読書】キャラクター「おっほん」

実施期間

【 10/7~11/28 】

札幌らしい特色ある学校教育

おっぽんシート

札幌市立篠路西中学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

■先生のおすすめ本

～図書委員によるポスター、動画作成～

生徒の皆さんにもっと本に関心を持ってもらう活動として、各学年の図書委員が考えた PR 方法で先生方のおすすめ本を紹介しました。クロムブックを使って、各自ポスターや動画を作成し、ポスターは図書館と各学年の水飲み場に貼り、動画は給食の時間にテレビで放送してもらいました。多数の生徒が借りてくれました。



■百人一首大会

図書館にある百人一首や古典の本に親しんでもらう企画として、百人一首大会を開催しました。各学年の代表の熱戦で非常に盛り上りました。大会前後1か月、大会の参考になるよう、関連本を展示しました。



学習センターとしての機能

■1年国語科

「図書館を使えるようになろう」

～オリエンテーション～

1年生が図書館の使い方を理解するために、図書館でオリエンテーションを行いました。本は日本十進分類法に基づいて並んでいることを初めて知った生徒たちは、その表や館内の配置図をもとに、お気に入りの本を探しました。授業後に図書館を訪れた生徒は、自分の探している本はどこにあるのか分類表と配置図を基に探すようになり、今後どこの図書館に行っても目的の本にたどりつける知識を身に着けました。



■3年国語科

～魯迅～

魯迅に関する資料を提供し、それを担当教諭が3年生の廊下に展示、手に取った生徒が見受けられました。



情報センターとしての機能

■ヒグマ展示

～まな bell と連動させて～

最近頻繁に出没し、被害が拡大しているクマについて、CISE ネットワークの調べる学習支援トルンキットをお借りして、ヒグマの生態や行動について考える機会を持ちました。実際の毛皮を触る機会は、とても貴重な体験になったようで、「意外と柔らかい。」「この部分は硬くてここは柔らかい。」などの感想がありました。キット内のヒグマ出没情報地図より現在は多数の目撃、それに伴う被害があります。北海道新聞記事検索データベース「まな bell」を使い、ヒグマ記事を検索・提示し、現在の状況とも合わせて考える機会となりました。

